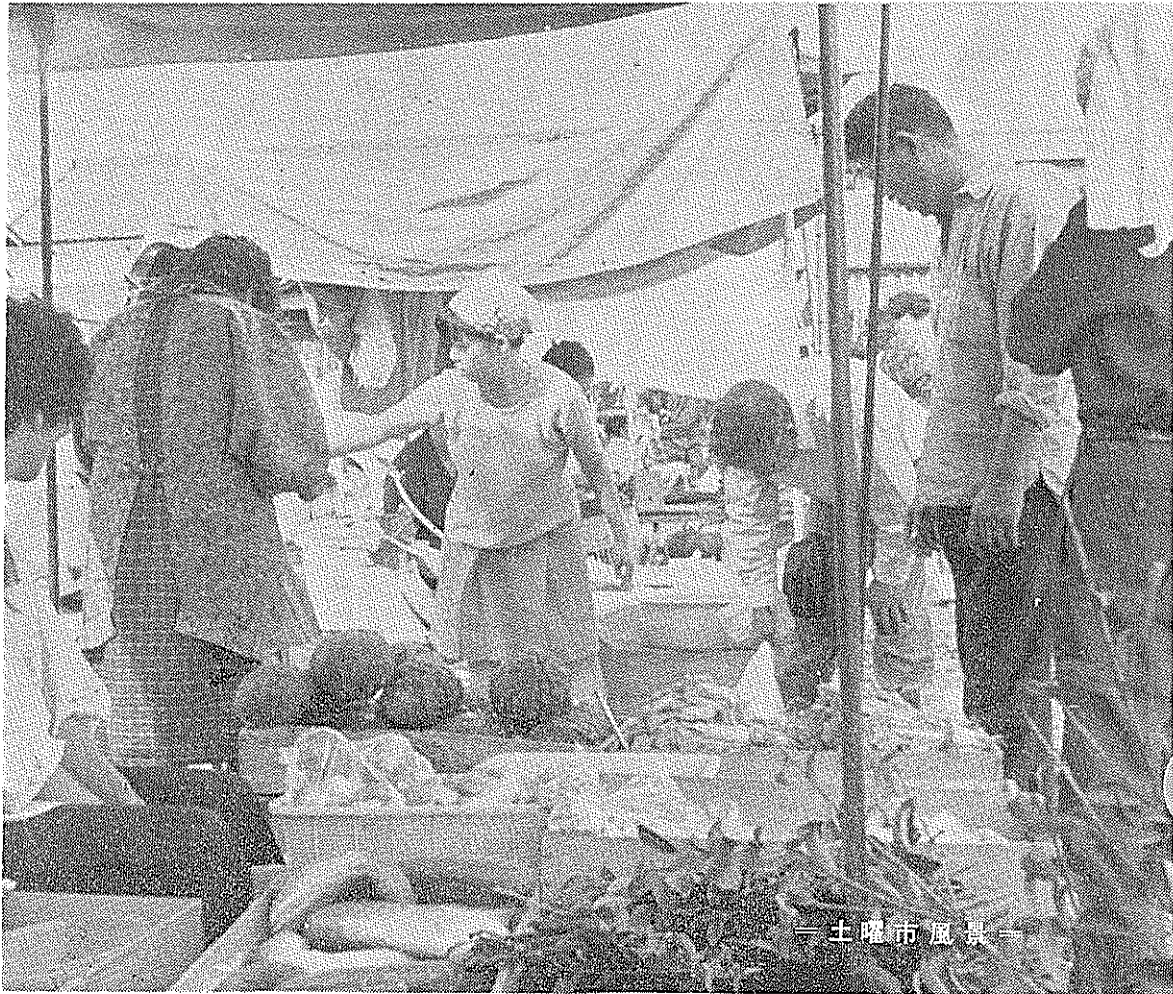


..... 報 廣

市 人 心

第 107 号

昭和44年11月15日
 編集発行
 南 国 市 広 報 委 員 会
 事 務 所
 高知県南国市役所内
 (電④2111)
 印 刷 川北印刷株式会社
 (電④3151・有線155—11)



— 土 曜 日 風 景 —

高度成長はできなかつたであらう。農業の質を根本的に変える時期がきている。最近、ぼつぼつ農業のかかっている米は少々高くても買いたいという声をきく、農家でも農薬をかけた米や野菜を作れば収量は少ないが、高価に売れるから収支面では案外面白いだろう。▼八百屋の店先で虫一つ喰ってない青々とした野菜と虫食いだらけの野菜を見れば誰でも良い品を買いたくなる、だが虫食いの野菜には農薬がかかっているかもしれない品である、良く考えるべきだ。



えは日本がこんな
 米は十分だとの声
 がきけるようにな
 った最大の原因は
 農薬である、だか
 ら農薬がなければ
 農家も、大きく言
 えば日本がこんな
 高度成長はできな
 かつたであらう。
 農業の質を根本
 的に変える時期
 がきている。最
 近、ぼつぼつ農
 業のかかっている
 米は少々高く
 ても買いたいと
 ういう声をきく、
 農家でも農薬を
 かけた米や野菜
 を作れば収量は
 少ないが、高価
 に売れるから収
 支面では案外面
 白いだろう。▼
 八百屋の店先で
 虫一つ喰ってな
 い青々とした野
 菜と虫食いだら
 けの野菜を見れ
 ば誰でも良い品
 を買いたくなる、
 だが虫食いの野
 菜には農薬がか
 かっている可能
 性がある、良く
 考えるべきだ。

農薬の害が度々新聞紙上ににぎ
 あわしだした。あまりにも増加し
 た使用量に害も比例して目に付き
 だしたからであらう。▼アメリカ
 での平均単位面積あたりの使用量
 の数倍以上も日本では使用されて
 いるらしい。これでは害があらわ
 れないのが不思議である。▼もう

市のうごき			
(9月末現在)			
転入	215	転出	277
出生	45	死亡	32
人 口	43,040人		
	(男 21,228人)		
	(女 21,812人)		
世帯数	12,067戸		

住みよく・活気ある

田園都市を築こう

市政功労賞授賞者

10月1日
市制10周年

あすの市政を

目ざして前進を

盛大に祝賀式典と記念行事



わたしたちが住み、育ててきました、郷土南園市は、十月一日で発足満十年となりました。
市制十周年を記念する祝賀式典は満十年を迎えた一日の午前十一時から市民体育館に、県知事代理をはじめ、県選出国会議員ら多数の来賓を招き、関係者、一般市民など約四百人が列席して、盛大に開られました。

先ず、の赤字財政にあって、歴代市長を金堂市長はじめ職員たちの労苦と、全市民の「市の協力によってじょじょに克服され、どうにか市の基盤が確立して

きました。これからは新しい世代にむかって、全市民が一体となりすみよい近代的な田園都市の建設に努力してゆきます」と力強い式辞を述べ、そのあと各方面で活躍されて市民の模範となられる五氏（教育・行政 岩村元治さん、社会福祉 山本高一さん、産業 橋詰利亀さん、一般 佐藤政継さん、川添好照さん）に第二回市民賞を市政に功労のあった五氏（浜田春

宮崎清作さん 八十四歳 西山

長岡村役場に奉職、その後村長として他方自治行政の発展に尽くされた。

また、産菜組合長や木炭組合、森林組合などを設立その役職にあって活躍された。

浜田春水さん 八十歳 前浜

元前浜村長、食糧不足村として保有米の全量買入れ、全戸配給の制度を実施、耕作の共同化、水稲栽培の統一をはかる。早くから物部川水利開発を訴え物部川開発の一助となった。

史学の造けいも深く、著書もある。市の文化財審議委員として活躍。

沢村正路さん 六十九歳 十市

地方裁判所の書記官として長らく勤務、公選初の十市村長として二期八年間の自給行政に尽力さ

市政功労賞 五氏に輝く

れた。のち、香長村助役として行財政の円滑な運用に意を尽くされた。

宮本正勝さん 六十八歳 奈路

上倉村の書記から助役となり自治行政に貢献された。

また、村会議員、同議長、また後免町議会副議長などを歴任、村政、町政に尽力され、市政の施行の促進に活躍された。現在、農業委員として努力されている。

五百歳貞さん 六十七歳 下野田

はやくから公明選挙運動に従事、市の明るく正しい選挙推進委員会長の職にあり、常に選挙の浄化と市民の啓発につとめている。もと後免野田組合教育委員、県、市の社会教育委員、連合婦人会長などをつとめ、青少年の健全育成、婦人の資質向上のため尽くされた。

市民賞授賞者



川添好照さん

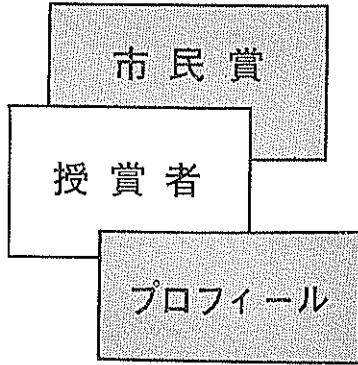
- ▷ 明治22年生れ
- ▷ 常通寺島
- ▷ 農 業

岡豊山の長曾我部城跡を開発、吉野椽の植樹するなど岡豊山の整備にあたる。大正9年に幼幼育成場と採草場をつくり不況の急を救う。

また、沈下橋の建設や堰の改築に努力する。戦時中は農地改良事業として農道、用排水路の整備など、地域社会の発展のためつくした。

推せん者 常通寺島⇒川添利雄さん

一般



さきに市民から推せんを受けました第二回市民賞は、表彰選考委員会(山下熊太郎委員長)で選考決定をみ、その表彰式は市制十周年の記念式の式場で行なわれ、金堂市長から表彰状と市民賞のたてが贈られました。



佐藤正継さん

- ▷ 明治29年生れ
- ▷ 久礼田
- ▷ 農 業

昭和38年、久礼田地区公民館長に就任。以来各種学級の開設、こども会や青年の育成指導にあたり、また、老人クラブ活動を活発にし、環境衛生、交通安全運動など公民館活動の第一線にあって活躍されている。

なお、部落総代として一般行政に地域産業の発展に貢献されている。

推せん者 植田⇒浜田広信さん

一般



山本尚一さん

- ▷ 大正3年生れ
- ▷ 後免町
- ▷ 医 師

人命尊重のうえに立って献血の重要性を説き、昭和41年に市に献血推進協議会を結成推されてその会長となる。開業医の多忙さを克服し寝食を忘れて活躍をされ、その人格とたゆまざる実践力により市の献血運動をこんにちのものにあらしめた。

社会福祉団体「清風会」会長として養護老人ホームの建設を計画、その用地の一部をさき「土佐希望の家」を誘致されるなど社会福祉事業に対する功績は大きい。また、広報委員長など市のかず多くの要職にあって、市政に貢献されている。

推せん者 北小籠⇒東条五部

福祉労働



橋詰利龜さん

- ▷ 明治32年生れ
- ▷ 稲 生
- ▷ 団体役員

終戦後の混乱期より、稲生農業協同組合の専務、組合長となり農協事業に専念し、多年の歳月を経てこんにちのような基盤ある農協を確立された。

また、部落の文化向上、農民の指導に心を傾け、保護司として、人々の善導にあたられている。

推せん者 稲生⇒松岡唯雄さん

産 業



岩村元治さん

- ▷ 明治35年生れ
- ▷ 大 埴
- ▷ 無 職

教員生活から、大饗村収入役、助役村長などを歴任し、戦中から戦後の教育、産業の振興、住民の福祉向上のため努力された。

とくに昭和38年から42年までの4年間は、市の教育長として、教育行政の方針を定め、教育施設の整備充実に努力され、教育効果の向上につとめた。

また、各種学級の開設、長尾鶏の保存増殖など社会教育面における功績も大きい。

推せん者 大埴⇒細木勝さん

行政・教育

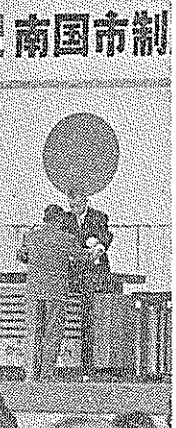
話題・トビックス

▽歴代市長△ 西村盛之、池川滋寿
 △歴代議長△ 野口幸重、井上満吉、沢村武一、中田清茂、故小川良水
 △農業委員△ 田村英実、田島正実、神田晴重、近藤武重、松下仁、松岡幸寿、池知三男、窪田幸雄
 △選挙管理委員▽ 武市亮一、岡沢嘉一、浜田広幸
 △一般行政△ 武内卓見、藤本茂樹、原四郎、元吉一郎、竹村洪郎、浜田澄
 △納税組合△ 森本一枝、松村治、浜田実、奏泉寺敏弘、竹崎久美子
 △交通安全▽ 小松義幸、高島清雄
 △産業△ 農業 土磨秀寿、高田利度、田内盛喜、山本美寿儀、徳永安雄、川村等 畜産 山本通夫、商工 松木基治

林多美子、沢木葉子、溝淵功、岡林満男
 △教育△ 西村信久、山中浩気、溝淵栄治、浜田祐夫
 △社会教育△ 山本義利、土磨直基、小川泉、三宮達郎、浜田一雄、利岡完、川田茂宏、島井幸治、岡崎邦雄、中村峻一、久米静彦
 △消防△ 山岡八郎、立田辰巳、田所良知、福川藤茂、秋山市

山本正雄、西川利紹、依光広栄、近藤加三、窪田茂樹、葛目節、竹島節、永森可路
 △青年勤続職員退職者▽ 故井戸陣、中村利子、故中沢繁美、宮崎藤子、春田喜代衛、故竹中常喜、池田登志、愛甲南海男、野村時、故森岡ツク、中山遊猪、久保川直喜、土居実美、久保芳太郎、宮地豊茂、池本豊子、故野村宏、横田品、浜田危喜、池添吉喜、故松村茂久恵、故田中千鶴、大野危喜、松浦正雄、故別府千代吉、井上一義、新田甲次郎、故川村正義、故

北村善之助、小齋神吉、森田繁、吉永久恵、故岩田哲太郎、高野重喜、三宮勝子、黒島幸中司忠夫、北村幸榮、岡田亀樹、山本泰一郎、故川端柳三、山本重之、故宮崎守恵、池沢武市美好、竹村喜代美、岡田福城、山本比佐衛、山本緑、小齋清美、橋本万喜、櫻尾寿亀、井戸繁子、和田幸重、浜田ヨシユ、田岡高行、土居彦馬、浜田静枝、山崎美苗、岡崎豊猪、田村銀於、門田 聡美



祝南国市制

写真は鼓笛隊パレード (Photo of drum and pipe band parade)

市制十周年をむかえての記念行事は、六月二十二日の湯川博士夫妻の講演会を皮切りに十月一日の祝賀式典を中心として行なわれました。

「ローマ帝国は一日にしてならず」私たちの祖先の数千年の積みが今日の南国市を築きあげたのです。市当局として、また、市民として、子孫のためさらに南国市を飛躍発展させる大きな義務と責任があるのです。ここに市において、今後の飛躍を期するため、南国市振興計画を策定することになりました。この振興計画は、南国市の将来のあるべき姿を描き、その目標に向って本市の立地条件と特性を生かした金すべての産業の振興を図ることによって、市民生活を豊かにするとともに、住民福祉の向上のための公共施設の整備拡充並びに施策を行なう計画を策定し、総合的、しかも計画的な行政運営を行なう指針とするものです。しかしこの計画が単なる「絵に

審議委員はつぎのとおりです。◇会長 入交好保、副会長 松本二郎、山下熊太郎 ◇産業部会 (▽は長、▽は副) △田村英実、▽西村熊喜、松本二郎、吉村雅男、徳永安雄、武市信喜、島井武義、山下熊太郎、中田清重、戸堀長男、山本昇、吉川茂隆 ◇社会部会 △山本高一、▽西川誠男、平田良広、猪野重行、沢村武一、高島正臣、坂本市郎、沢田信喜、島本保隆 ◇両部会所属 西内四郎、大川昭

市制十周年をむかえての記念行事は、六月二十二日の湯川博士夫妻の講演会を皮切りに十月一日の祝賀式典を中心として行なわれました。

七百人の踊り子隊による「南国おどり大会」が、あいにくの雨をつぎ、市の中心街を練りあるきにぎやかな一夜を送りました。満十年目の一日は、式典にさきだち朝から午前十一時まで市内の小、中学生三百五十人による鼓笛隊が市パレードし、市制十年のいぶきを市民に湧きたせるなど、こんごの発展への第一歩を踏み出させました。また、式場前では、市の果樹研究会同志会により、果実の即売会がひらかれました。四日は、初の土曜市、午前九時金堂市長により開市のテープが切れ、待ちかねた人たちがどっと繰り込んで終日にぎわい、関係者をよろこばせました。日用雑貨、青果物、食品品植木

また、十一月から十九日まで市民体育館でひらかれました。ことは果展とを同じくしたため、出品作品は例年のような伸びをみせず、横ばいのような状態でした。また、十一月から十六日まで中央公民館で、市の文化財展も開かれ

市の未来を生みだす 振興計画を 大きく飛躍 発展をさせよう

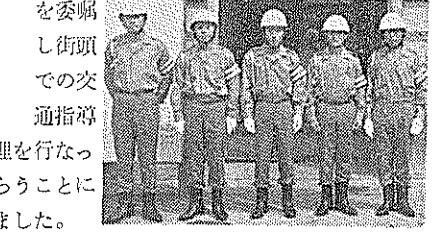
責任があるのです。ここに市において、今後の飛躍を期するため、南国市振興計画を策定することになりました。この振興計画は、南国市の将来のあるべき姿を描き、その目標に向って本市の立地条件と特性を生かした金すべての産業の振興を図ることによって、市民生活を豊かにするとともに、住民福祉の向上のための公共施設の整備拡充並びに施策を行なう計画を策定し、総合的、しかも計画的な行政運営を行なう指針とするものです。しかしこの計画が単なる「絵に

審議委員はつぎのとおりです。◇会長 入交好保、副会長 松本二郎、山下熊太郎 ◇産業部会 (▽は長、▽は副) △田村英実、▽西村熊喜、松本二郎、吉村雅男、徳永安雄、武市信喜、島井武義、山下熊太郎、中田清重、戸堀長男、山本昇、吉川茂隆 ◇社会部会 △山本高一、▽西川誠男、平田良広、猪野重行、沢村武一、高島正臣、坂本市郎、沢田信喜、島本保隆 ◇両部会所属 西内四郎、大川昭

市制十周年をむかえての記念行事は、六月二十二日の湯川博士夫妻の講演会を皮切りに十月一日の祝賀式典を中心として行なわれました。

七百人の踊り子隊による「南国おどり大会」が、あいにくの雨をつぎ、市の中心街を練りあるきにぎやかな一夜を送りました。満十年目の一日は、式典にさきだち朝から午前十一時まで市内の小、中学生三百五十人による鼓笛隊が市パレードし、市制十年のいぶきを市民に湧きたせるなど、こんごの発展への第一歩を踏み出させました。また、式場前では、市の果樹研究会同志会により、果実の即売会がひらかれました。四日は、初の土曜市、午前九時金堂市長により開市のテープが切れ、待ちかねた人たちがどっと繰り込んで終日にぎわい、関係者をよろこばせました。日用雑貨、青果物、食品品植木

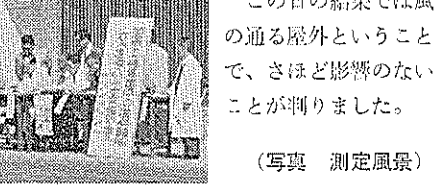
激増する交通災害を防止するため市は、このほど交通指導員5人と交通安全推進委員を委嘱し街頭での交通指導や整理を行なってもらうことになりました。



(写真は交通指導員の人たち)

☆さきの県民体育大会に南国市からも数種目参加し、かなりの好成績をあげました。なかでも青年男子のバレーボールは、初優勝をかざり、東京大会への出場権を獲得しました。

☆10月18日、後免東町の街頭において、香、長、土業剤士会(吉本明太郎会長)の人たちが、自動車などにより発生するそう音などの交通公害の測定調査が、朝8時から5時まで、2時間ごとに行なわれました。



(写真 測定風景)



☆市が立田地区へ誘致しました。都築紡績高知工場の起工式が10月18日に行なわれました。

明年4月までに取りあえず工場棟と事務所、男、女子寮を建設し、来年10月から約3百人の工員で操業を始める予定。将来は7百人の従業員となる見込みで約28億円の総工費で建設されます。(写真は、鉄入れする山口鼎副社長)



☆奈路小学校に新しく校歌が生まれました。

作詩は、同校の岡田清志校長で、後免野田小学校の真鍋伝一校長の作曲によるものです。

朝すみ渡る 南国の花吹きにおう、奈路の丘
 みのり豊かなゆりかごに
 力の泉 わきいでて
 はげむわれらよ 光りあり
 歴史かがやく 学び舎(や)の
 緑の窓に 幸をよぶ
 明るくみんな 肩をよぶ
 強く正しく どこまでも
 進むわれらよ 誇りあり
 りりの水ゆく 奈路川の
 国見はるかに 雲のぼる
 仰ぐ希望の まなざしに
 ああ若草の 夢清く
 ひらくわれらよ 使命あり

記念行事

この講演会は、世界連邦建設同盟南国支部(支部長徳永安雄氏)の結成記念をかねて行なわれたもので、湯川スミ夫人は建設同盟の会長で博士は世界連邦協会の名譽会長をつとめています。

また、式場前では、市の果樹研究会同志会により、果実の即売会がひらかれました。四日は、初の土曜市、午前九時金堂市長により開市のテープが切れ、待ちかねた人たちがどっと繰り込んで終日にぎわい、関係者をよろこばせました。日用雑貨、青果物、食品品植木



写真は、たのしかった空の旅



写真は、市街へくりだす踊り子隊

また、十一月から十六日まで中央公民館で、市の文化財展も開かれ

話題・トビックス

話題

「特別養護老人ホーム」のできるまで

昨年九月の市議会において、S議員より、老人ホーム建設の要望があり、以来、議員、市民から、促進要望の声が叫ばれてきました。ことしはじめから市長、山本先生を中心として、有志の者が秘密裡にその対策、実現にとりくんできました。



(写真は希望の家起工式)

久礼田、大津、介良山琴平地区などを調査したものの、いづれも、帯に短かしたすきに長たすきで、きまりませんでした。ことしの六月五日、高松市に希望の家が山田地区に反対され、七月までに土地が決定しないときは補助金打ち切りの事態に、追いつめられていることを知り、

ただちに希望の家の紫藤理事長に連絡をとり、南国市に老人ホームと希望の家の併設を相談したところ、地獄で、仏にあった気持ちであると喜ばれ、早速、最後の頼みの地である平越山の北側の土地から買取にかかりました。

たことと思えます。さらに、長尾西村、西内、竹平、中村氏の協力を得て、八月三日の自転車振興会原口一次公益事業部担当理事の視察にどうにか間に合うことができました。

が、希望の家の誘致が成功したばかりに、原口氏から清風会に対して感謝のしるしとして、五千万円に近い、融資をうけることになり、社会福祉団清風会が誕生することとなりました。申請手続を九月二十日までに限定せられたため、社協の藤平氏をはじめ福祉の岩崎、武市両氏に非常なるご迷惑をおかけすることになりました。

この運営には、かなりの困難がともなうものと思われます。さらに医療センターの建設も予定しておりますが、これらができあがりませぬ、高知県下は言うにおよばず、全国的にも珍らしいケースとなりましょう。

地元池田、平山、椋常氏らの協力によって、日夜、土地の交渉にあたりましたが、できるかと思えばくずれ、七転び八起きの状態がつづき、七月の終りに至り、最後に山頂の地を買取すべく交渉にかかりました。西村、谷村両氏の献身的協力がなかったら、恐らく、希望の家は南国市に出現しなかつたことと思えます。

九月十五日は敬老の日、老人をいたわる行事が、各地で行なわれておりますが、老後を明るく心ゆたかに暮らしている老人が果してどれ程あるでしょう。

老人福祉に思う

自殺者は世界第一位であるといふことから考えても、不幸な老後を送っている老人が、いかに多いかがわかります。このことは、わが国の老人福祉の貧弱なことにも問題があります。

ヘルパーさん達の涙ぐましい努力を見るにつけても家族はもろろん地域ぐるみで老人の幸せを考えてゆかねばならないと思えます。近く南国市にも、老人ホームが建設されると聞きますが、老人達が療養や仕事をしながら、楽しく有意義な余生を送られることを考えると、施設が一日も早く建設されることを切望します。

舟岩古墳群

希望が丘学園の北側、大平山の山頂に近い舟岩には、約二十基の古墳群がありました。近年密柑畑に開墾されたので、その多くは破壊されましたが、山頂近くには地主(岡崎信雄氏・中司盛郎氏)の好意でまた三、四基の古墳が残されています。



横穴式の円墳で千二、三百年昔の小塚族のもので。先だって、県市合同で十数基を発掘し、数多くの金環、銀環、武器、馬具、土器が出土しました。

小蓮古墳

(県指定史跡) 朝倉古墳、大藤明見の彦山古墳と



ともに、土佐の三大古墳とよばれて、ともに高知県指定の文化財です。国道三十二号線ぞいの小蓮から北へ約三百メートル

崑沙門の滝

(市指定名勝)

崑沙門のおこりだといわれ、南国市指定の名勝地でもあります。長宗我部氏の盛んであった頃には規模の大きな滝木寺があった様で次の草取歌が伝わっています。

宇宙の話

落とすと重いほう早く落ちると思っている方がたくさんいます。地球の中心を通過して穴を掘り、中に石を落したらどうなるだろう。コップの中に水を入れておくとしばらくすればくさりやす、地球も大きな入れ物ですか、なぜ海の水がくさらないでしょう。木星や土星へゆけば、海は水でなく石油かもしれませぬ。



いまお隣りの韓国で流行しているコレラについてみてみましょう。潜伏期は、数時間から、三日間で、伝染の媒介物は、井水、河水、海水の汚染、はえとその幼虫患者の糞便や吐物からのコレラ菌によって発病します。健全な胃においては、菌の多くが、胃液のために滅殺されますが、食物の中心部にあるもの胃液分泌の欠乏の際、または胃内

コレラとは

発熱し、便が米とぎ汁ようとなり脱水状態をきたし、心臓が弱って死亡することになります。予防法としては、コレラ菌の侵入することを防ぐため、飛行機や船舶の検疫を厳重にし、不幸にして発生した場合は、患者および疑似者(五日間)を隔離します。

選挙は 12月7日です。 この一票を大切に

ノ連が最初に人工衛星を飛ばしたときは世界中を驚かせました。今では人を乗せたロケットが月まで行きだしたまさに宇宙時代です。だから人々も地球や月のことを話だいにのせだしました。だが案外間違っって面白いことを話しています。地球の反対側どうしの人には、お互に頭が下向いているのにならぬ、落ちないだろう、どうして落ちない。地球はなぜ空間にうかんでいることでしょうか、落ちそうなのですか。屋根から何か

おみもの

文化財めぐり

⑥ 滝木にある、高さ三十メートル、三段にわかれて落ちていきます。周囲には老木が茂り、歴史を秘めた崑沙門堂があります。

崑沙門の滝

崑沙門のおこりだといわれ、南国市指定の名勝地でもあります。長宗我部氏の盛んであった頃には規模の大きな滝木寺があった様で次の草取歌が伝わっています。

宇宙の話

落とすと重いほう早く落ちると思っている方がたくさんいます。地球の中心を通過して穴を掘り、中に石を落したらどうなるだろう。コップの中に水を入れておくとしばらくすればくさりやす、地球も大きな入れ物ですか、なぜ海の水がくさらないでしょう。木星や土星へゆけば、海は水でなく石油かもしれませぬ。

秋の日に

十月二十一日の国際反戦デーの日、東京の一部では戒厳令が発令されるほどの騒乱が持ちあがり、千人の逮捕者がでたと報ぜられて

れないと言ったようなこと。自分の土地へ自分の意志で自由にものが作れなくなる、そんな時代がきたとしたらどうだろう。農民よどこえゆく——余り過ぎた米をこれ以上余るほど作らないために、何をどうしたらよいか、いまや農民は大きな転換の危機に直面している



みなさんの声、意見をお寄せください。
 〓六百字以内〓

長平野ではそうした都心の騒乱をよそに、二番種の穂波が乾いた秋風にそよぎ秋祭りの大鼓の音が平和そうなひびきを伝えて

現在の私達には以前のように真の平和と安息のひびきとしてすなおに聞くことはできなくなった。

米の問題だけを取りあげても、米価の据え置き、一律に一〇パーセント減反しなければ食糧法は守

み、対処しなければならぬと私は考える。

現在の単協の在り方は単に銀行屋と保険屋とが関係しているような状態で、貯金がいくらになったと保険の総額がいくらになったとい

いそがしい毎日の生活の中にあって、ややもするとお互いに大切な人間関係を忘れがちになりやすい現在です。子供からお年寄りまで、もっと小さな親切に目をむける必要があると思います。

「小さな親切」運動をおこそう

住所氏名を明記のうえ、みなさま方のご投書をお待ちいたしております。

結婚式を

考えよう

三十三秒ごとに、一組の新しいカップルが誕生しています。厚生省の統計によると、年間九十五万組以上の新婚夫婦がスタートするといわれています。



結婚式に、すぎたるものが二つあります。一つは、花嫁の色直しという風習、もう一つは、来客に出す引き出物。自宅で行われる結婚式ならともかく、式場を利用する場合は、所要する時間は、三時間以内が、普通であり、そのうち祝辞や色直しに、一時間以上も、かかることが多くあります。色直しのため、花嫁のいなくなった式場ぐらゐ、間がぬけたものはありま

郵便物には
 郵便番号を

住所の番号も忘れず。郵便番号は、郵便物に必ず記入してください。

せん。かたぐるしい衣裳では、花嫁が可愛相だと、いわれる人もあるかも知れませんが、長い人生の苦勞を思えば、三時間位の辛抱はがまんすべきであり、来客に対しても、花嫁が座をはずさないことが、最大のサービスであると思います。色直しの風習は考えてみるべきではないでしょうか。

次に引出物は、贈るものにとつて、頭痛の種であり、もらうものにとつても、またこんなものがといつたものが多くあります。なか工夫ができないものでしょうか例えば、二人の楽しそうな写真をもらった方が記念となり、気がきいていきます。それに宝くじか、はがきでもそえたらもって帰るのに荷物にならなくてよいと思えます。(湖 鯉)